2023年8月吉日

【取材のご案内】

“重要文化財 神戸女学院”が校舎の一部改修を開始

新マスターアーキテクトが「もしもヴォーリズが生きていたら」に思いを馳せて考える

西宮を代表する重要文化財として、街に開かれた“新たな学び舎づくり”とは

神戸女学院 改修前キャンパス取材会

9月11日(月) 15:30～17:30（受付開始時間：15:00）
関係各氏に個別取材受付中

神戸女学院大学　キャンパス改修へ
マスターアーキテクトには日建設計：大谷弘明氏

神戸女学院は、“美しい心を育むための品格ある建築”であるヴォーリズ設計の建物を中心とした美しいキャンパスを、一粒社ヴォーリズ建築事務所、竹中工務店など多くの設計・施工関係者に支えられ、長きにわたり守ってきました。その一方で、教育環境の変化に対応するために必要な増改築の計画には全体の調和に配慮しつつも、新しい時代の神戸女学院を具現化するデザインのあり方が課題として挙げられています。そこで本学院では岡田山キャンパスの創建以来、実に90年ぶりとなる「マスターアーキテクト」として日建設計に所属する大谷弘明氏を選定しました。これまで多くの大学キャンパスの設計実績がある日建設計チームと本学院は、共にヴォーリズの思いを継承し、国民共有の財産でもある重要文化財神戸女学院を未来に繋ぎ、市民にも開かれたキャンパスづくりを目指します。

日建設計 チーフデザインオフィサー
大谷弘明氏

「全貌の見えない山の上のキャンパス」から「西宮の街に開かれたキャンパス」へ
ヴォーリズ設計時にはなかった「今津西線」とキャンパスのより良い調和を目指す

これまでにも「まちたびにしのみや」や「地域創りリーダー養成プログラム」の取り組みを通じて西宮市民と交流を図ってきた神戸女学院大学。しかし、校舎の全貌は山の上にあるため、市民の人はなかなか見る機会がありませんでした。そこで、今回は2024年の学部新設に合わせ、西宮市のほぼ中央を南北に走る幹線道路「今津西線」からのアプローチを新たなキャンパスゲートに相応しい形とし、地域に根差し、より市民に開かれた美しいキャンパスとして整え直します。

取材会当日は、再整備の現場も含め、
現状のキャンパス全体をご案内、ご説明します。

取材会概要

名称：神戸女学院 改修前キャンパス取材会
日時：9月11日(月) 15:30～17:30（受付開始時間：15:00）
場所：神戸女学院大学（〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山４－１）
プログラム：
・重要文化財と街とが調和するこれからの神戸女学院について
（田原氏/ 山形氏/ 日建設計: 大澤氏、中川氏）
・現キャンパスツアー
・関係各氏に個別取材（事前にお申込みくださいませ。）

＜本件に関するお問い合わせ先＞ 神戸女学院PR事務局（プラチナム内）担当:久保田
TEL：03-5572-6071　FAX：03-5572-6075　MAIL：kobeclollage-pr@ vectorinc.co.jp

[参考資料／プラチナム作成]

取材会登壇者プロフィール

京都工芸繊維大学客員教授/田原幸夫

京都大学工学部土木工学科・同建築学科卒業。
1983年、ベルギー政府のフェローとしてルーヴァン・カトリック大学
大学院の保存修復専門課程に留学。
ユネスコ世界遺産「グラン・ベギナージュ」の保存活用設計に従事。
国内では東京駅丸の内駅舎保存復元の設計を担当。直近では京都の
新行政棟・文化庁移転施設整備にあたりヘリテージ・アーキテクトを務めた。
現在は京都工芸繊維大学客員教授として、近代建築の保存改修、
デザインをリードするプロフェッサー・アーキテクトの立場にある。
神戸女学院文化財保存活用委員会委員。

■取材可能事項
・重要文化財における保存活用の理念について
・文化遺産としての大学キャンパスの未来への継承と現代の貢献について

関西学院大学客員教授/山形政昭

京都工芸繊維大学工芸学部建築学科卒業。
同大学院修士課程修了。東京大学にて工学博士の学位を取得。
主な研究分野は、建築史、建築計画。 大阪芸術大学教授を務めた。
特にウィリアム・メレル・ヴォーリズの調査研究の第一人者であり、今日の
建築家ヴォーリズの評価の高まりは山形氏の貢献に負うところが大きい。
神戸女学院文化財保存活用委員会委員。

■取材可能事項
・神戸女学院学校建築の現代における価値について
・神戸女学院がヴォーリズ建築を守り、活かしていくためには何が必要か

日建設計/大澤智

大阪大学修士課程を経て、日建設計入社。
専門は建築意匠設計。一級建築士、日本建築学会会員。
沖縄科学技術大学院大学、大阪大学箕面新キャンパス、
インフォシス チェンナイキャンパス
など国内外で豊なランドスケープを活かした優れた大学のプロジェクト等を担当。
現在、神戸女学院「キャンパス再整備マスタープラン」全体の設計チーフを務めている。

■取材可能事項
・今回の再整備計画の概要
・ヴォーリズ建築の模倣にならない、時代に即したキャンパス整備について

神戸女学院 理事・総務部長/北條敦子

神戸女学院中高部を経て同大学文学部英文科卒、一級建築士。
京都国立博物館専門員として平成知新館新築事業に携わった後、施設課長として神戸女学院に着任。
2022年４月より総務部長。2023年４月より理事・総務部長。

創設時の建築家 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

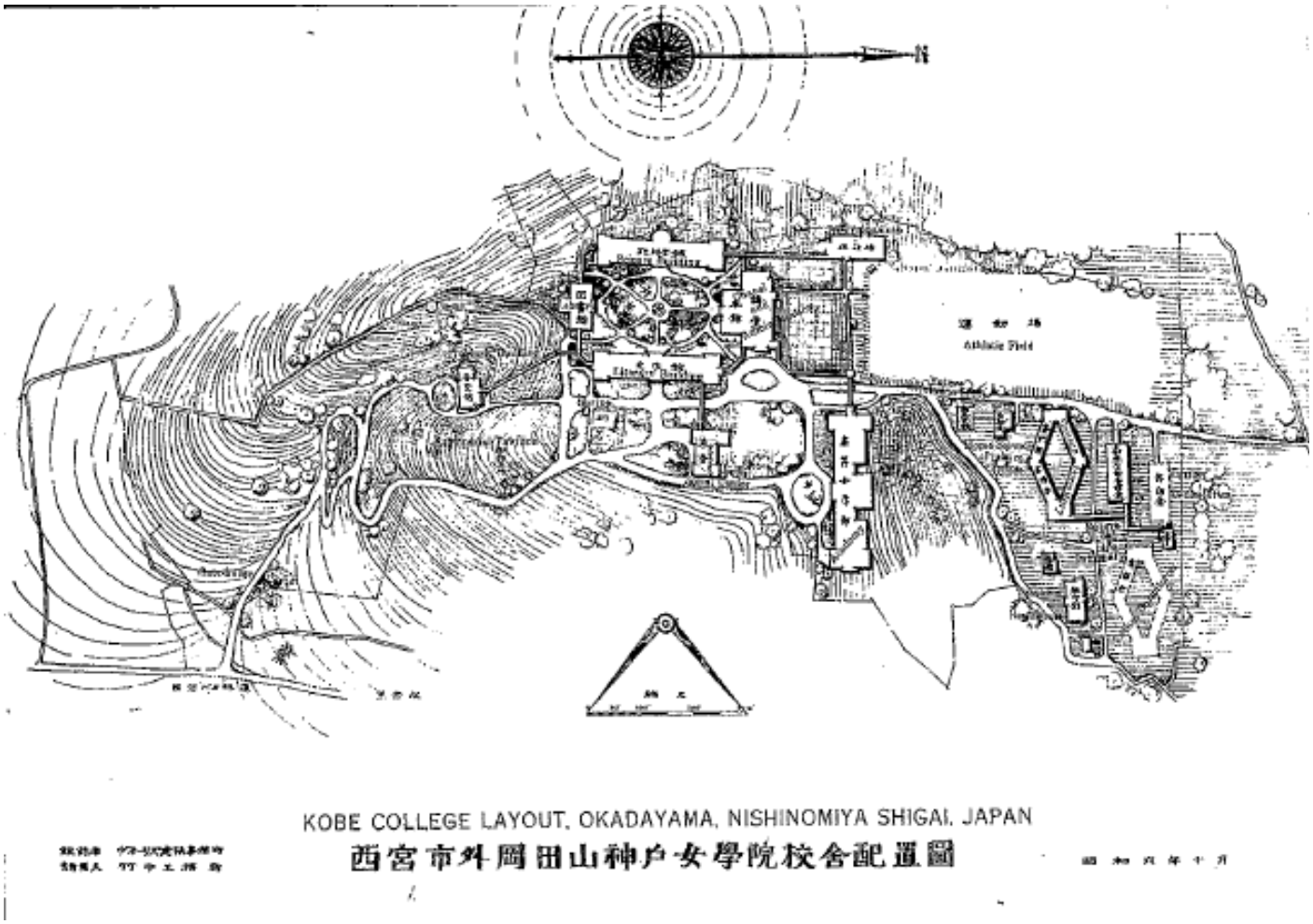
1880年10月28日 - 1964年（昭和39年）5月7日
アメリカ合衆国に生まれ、日本で数多くの西洋建築を手懸けた建築家、
社会事業家、キリスト教の信徒伝道者。関西を拠点とし、滋賀県近江八幡、
心斎橋大丸、関西学院大学など数多くの西洋建築を手掛ける。
神戸女学院には妻の母校という縁があり、岡田山現キャンパス移転時に建築を担当。

[参考資料／プラチナム作成]

神戸女学院岡田山キャンパスの変遷

岡田山キャンパス移転当初

「(略)建物それ自身が生徒の上に積極的影響を及ぼすと言ふ事である。（略）真の意味に於いて芸術的なるもののみがよき感化を与え得るのである。よく均整のとれた調和のよい設備の施された建物に住ましめると言ふ事のみにても真の教育となるのである。」とのヴォーリズの思想と建学の精神を具現化した神戸女学院キャンパスは、1933年完成した。
キャンパスの中心となるのは、中庭を囲む4棟の校舎である。
文学館とそれと向かい合う理学館。反対の対角線上には、芸術を象徴する音楽館を背景に、智を象徴する図書館があり、その正面に精神を象徴するソールチャペルと講堂を有する総務館が建っている。
出来上がっていくキャンパスを見ながら、デフォレスト院長より一篇の讃歌が生まれた。
Beauty becomes a college.（美は学舎に相応しく。）がその冒頭の一行である。

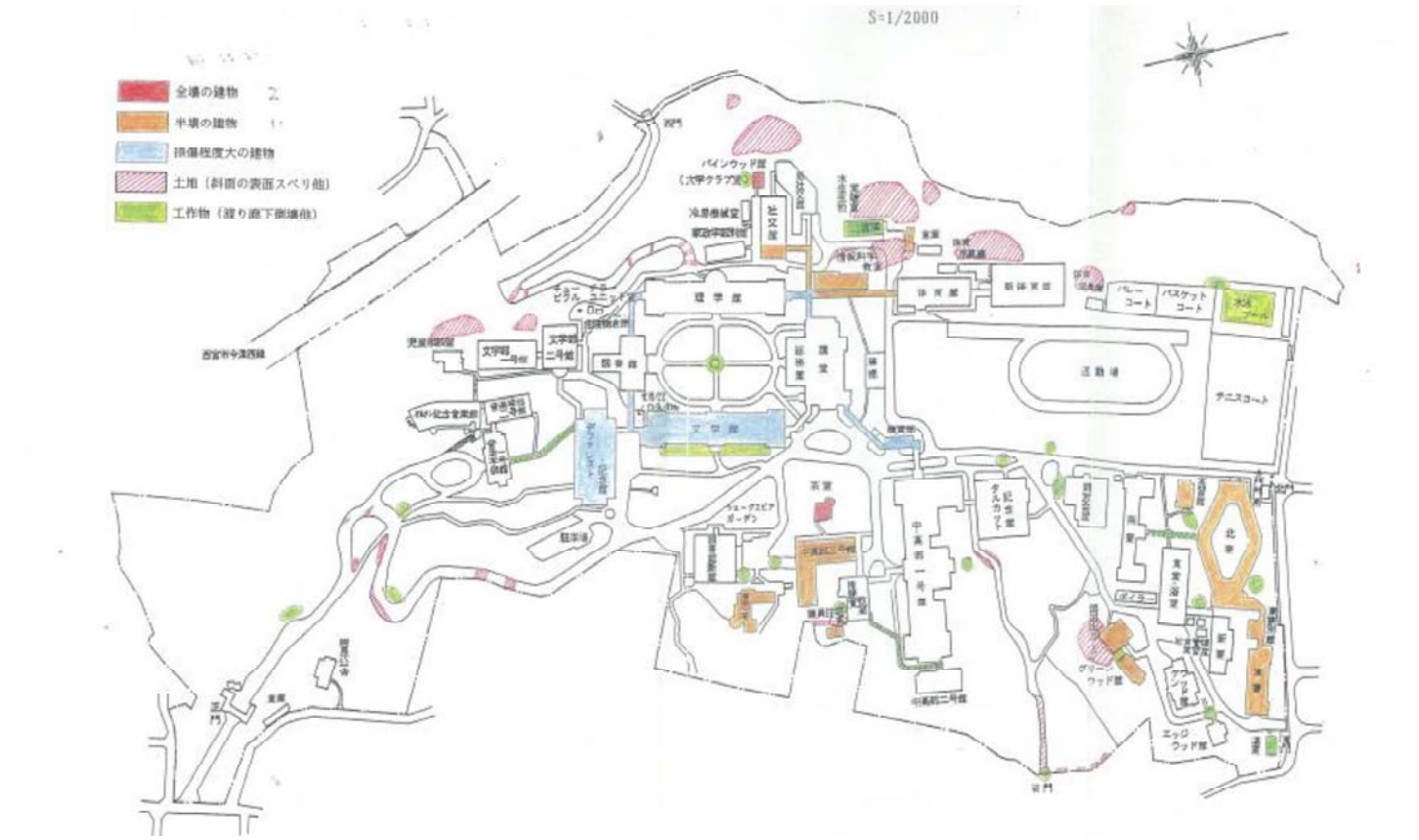


[参考資料／プラチナム作成]

神戸女学院岡田山キャンパスの変遷

阪神淡路大震災による被害

1995年の阪神淡路大震災は神戸女学院に甚大な被害をもたらした。2棟が全壊したほか、北寮など半壊のため取壊しを余儀なくされたヴォーリズ建築もあったが、屋根部分が損傷したが無事復旧した文学館を含め、キャンパスの中心である中庭を囲む4棟を始め12棟のヴォーリズ建築が震災を乗越えることができた。
貴重な建築が守られたのは、優れた理念とそれを大切に守る良き施主、使い手の存在が揃っていたからであり、神戸女学院が良い建築を作り、その質を維持するために努力し続けてきた結果である。
震災から19年を経た2014年、これら12棟の建築とパーゴラ(藤棚)が重要文化財の指定を受けることとなる。



キャンパス再整備マスタープラン実施へ

2023年、神戸女学院は日建設計の提案したキャンパス再整備マスタープランに基づき、まずはその嚆矢として「理学館西側地域再整備計画」に着手した。ヴォーリズによるオリジナルのキャンパスが備えていた完全な美と学校としての実用性、これらを損ねていた後年の増築建物の建て替え等により、オリジナルの校舎群と調和し、新しい時代の開かれた神戸女学院を具現化する新棟の設計が進められている。この日、重要文化財保存活用委員会が開催され、新棟のデザインについて意見が交わされる。
本物の価値を備えたオリジナル建築群と調和しつつ、社会に向けて開かれた新たな神戸女学院のイメージを創り出すデザインはどうあるべきか。神戸女学院において、ここまで真面目に学校建築のデザインが議論されていること、それが重要視されていること自体、現代日本のすっかりビジネスに組み込まれた建築の世界では異例のことで、一つの奇跡である。実際に議論に関わった委員の皆さんに直接取材することにより、その意義を感じていただきたいと思う。